

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	26220401	研究期間	平成26(2014)年度 ～平成30(2018)年度
研究課題名	宗教テキスト遺産の探査と総合的 研究—人文学アーカイヴス・ネット ワークの構築	研究代表者 (所属・職) (平成31年3月現在)	阿部 泰郎 (名古屋大学・人 文学研究科・教授)

【平成29(2017)年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
	A+ 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A- 当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究が基本的な目的とする宗教テキスト遺産のアーカイヴス化は、当初目標に向けて着実に進んでいる。また、資料調査研究の過程で、特に禅籍を中心に新たな知見が得られたことは、大きな成果と言える。ハーバード大学など海外の大学の研究者と連携して研究の国際発信を行っている点も評価できる。今後、作成したデジタル・データベースを活用して、いかに高度な専門的研究ができるか、さらに個々の研究者の専門分野や国を超えて、研究代表者の言う「国際・分野横断による研究を通じた人文学に普遍的なテキスト学の構築」という極めて高度な目標を達成できるか、その成果が待たれる。

【令和元(2019)年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	「国際・分野横断による研究を通じた人文学に普遍的なテキスト学の構築」のために、広義の宗教テキストをアーカイヴス化し、オープンデータとして公開しながら分析を進めてきた本研究の貢献は大きい。国内外の研究者と有機的に連携を取りつつ効率的に研究が行われており、真福寺大須文庫のデータベース基盤の作成や『中世禅籍叢刊』の完結、その他のテキストの収集数や範囲の広さは貴重である。 研究成果の公表も着実に進められ、論文等からは本研究の意義や独自性が明確である。国内外の社会・国民への発信も多様かつ活発であった。